

遠い地で待つ人々へ 必要な支援を

山田 芽さん(若原)



「日本に戻ってからも農家の人たちの役に立ちたい」という山田さん



1



2

①大学での畑サークルではスイカやサツマイモなどさまざまな農作物を栽培 ②ラオスでの交流の様子

新しい環境で新生活を始める人も多い4月。山田さんにとつてのこの春の新天地は、アフリカ南部に位置する国、ザンビアだ。国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊として2年間、活動する。

国際協力を視野に入れ始めたのは、大学進学先を考えたとき。「将来、何をしたいか思い描いたとき、ドキュメンタリー番組で見た、世界中の国で支援を必要としている人たちのことが頭に浮かんだんです。そんな人たちをサポートしたいと思いました」。国際協力を学ぶ学部に進み、在学中にはフィリピンやラオスを訪れた。研修やホームステイ、さまざまな民族とのふれあいも経験し、困っている人を支援したいという思いがさらに強くなった。

ザンビアでは稲作やキノコ栽培などを導入する活動に携わる。農業も大学で学んだことの一つだ。「なにか専門分野がある方が役に立てると思います」。

農業を選んだのは合志で生まれ育ったからこそ。身近に農業があつたんです。農業に興味がある人とともに畑サークルで活動した。「土に触れて農業を学ぶのがすごく楽しかったです」。

大学卒業後も農業の研修を受けたり、農産物売る仕事をしたりしながら、語学の勉強など海外で活動するための準備を進めてきた。「やっぱり、できるだけ現地の言葉でコミュニケーションをとりたいですね。仕事で得た知識も活用できたらと思います」

学んできた知識や経験を手に、この春、いよいよ海外協力隊としての活動を始める山田さん。「国際協力はただの自己満足になつてはいけな」と思っています。「国際協力への信念も抱いている。私たちの考える幸せと現地の人々の幸せはそれぞれ違う。だからこそ、助けを求めている人に必要な支援をしていきたいです」。山田さんの原動力は、遠い地で支援を待つ人々の声だ。

あなたの周りにはキラッと輝く合志人を紹介してください。たくさんの紹介をお待ちしています。



あなたの周りの**合志人**を探しています
企画課 企画広報班(合志庁舎) ☎248-1813

和顔愛語



今月号はP2に菊池地域合同特集を掲載しています。菊池地域内の楽しいスポットを紹介していますので、ぜひ春のお出かけの参考にしてください。

生活環境が変わる人も多いこの時期。皆さんはどんな思いで、どんな新生活を始めますか。私は4月で広報担当2年目に突入です。まだまだ勉強が足りないと感じる毎日。今年度はもっと成長していきたいです。ひとまず、暖かくなってきたので、寒さにかまけて中断していた運動を再開しなければと思っています。思ったままで終わらないようにしないとあ...

小山

出入国管理法等の改正に伴い、外国人労働者の受け入れ拡大が始まりました。外国語学習マニア(下手の横好きですが)の私にはチャンスと感じる一方、就労義務のない外国籍児童が学校に通わないまま大きくなったらどうなるか、外国人が日本社会で孤立しないかなど、懸念や課題も感じます。誰もが住みやすい市として、相乗効果や好循環が生まれれば素敵ですね。

高野

人の動き

人口……62,321 (+ 56)
世帯……24,438 (+ 22)
出生…40 (- 16) 転入…229 (+36)
死亡…56 (+ 4) 転出…157 (+10)
※2月末現在 ()内は前月比

